

留学を終えて

県立岐阜商業高校 アディカリ自然（ドイツ）

私は1年間ドイツへ留学し、日本では経験できないことを多く体験し、新しい価値観を得ることができました。私が留学を決意した理由は、将来の夢と深く関わっています。私は将来、国際機関で働き、世界中の困っている人々を支援し、さまざまな問題を解決する手助けをしたいと考えています。そのため、新しい世界を知ることが重要だと思い留学を決意しました。また、1人で1年間異国の地で生活することは、自分自身の大きな成長につながると考えました。ドイツへの留学が決まった時、ヨーロッパという未知の地で、英語ではなくドイツ語を話す環境に飛び込むこと、そして新しい家族と生活することにワクワクする気持ちと不安な気持ちが入り混じっていました。しかし、現地では周囲の人々に恵まれ、充実した留学生活を送ることができました。

ホストファミリーはとても温かい人たちで、毎日一緒に食事をし、夜にはカードゲームや映画を楽しむというルーティンのおかげで、家族のような深い絆が生まれました。私は日々感じたことをシェアするように心がけ、また、ホストファミリーも私を本当の娘のように接してくれました。そのことがとても嬉しく、毎日感謝の気持ちを伝えるようにしていました。留学後の今でも、月に1回は電話をしており、この素晴らしい出会いに心から感謝しています。

ホストスクールでは、クラスメートが積極的に話しかけてくれ、勉強で困った時にはドイツ語や英語を使って助けてくれました。ドイツの生徒たちは英語が堪能で、ドイツ語が話せなかった私にも英語で話しかけてくれたため、初日からクラス全員と会話をすることができました。授業はすべてドイツ語だったため、理解が難しいこともありましたが、周りの生徒が寄り添って内容を簡単に説明してくれたり、先生も私のために分か

りやすいプリントを準備してくれたりしました。そのたびに、温かい人たちに支えられていると実感しました。

日本と異なり、ドイツの授業では生徒全員が自分の意見を持ち、積極的に発言していました。その様子を見て、私も積極的に意見を言えるようになりたいと思うようになりました。特に印象的だったのは、初めてドイツ語でプレゼンテーションをした日のことです。それまではクラスメートとは英語で会話していましたが、初めてドイツ語で発表することになり、不安でいっぱいでした。しかし、クラスメートは優しいまなざしで見守ってくれ、発表後には「ドイツ語が上達したね」「内容がよく理解できたよ」と褒めてくれました。とても嬉しかったですし、不安だったけれど挑戦して良かったと心から感じました。

ドイツ語を話せるようになってからは、クラスメートとの関わりが増え、遊びに誘ってくれることも多くなりました。それがさらに私の言語力向上のきっかけにもなりました。授業についていけないと感じた時には先生に相談し、私に合った学習スタイルを提案してもらうことで、充実した学校生活を送ることができました。

私の地域の留学生支部には8人の留学生がおり、1ヵ月に1回の集まりやイベントを通して親しくなりました。プライベートでもよく会うようになり、それぞれの国の料理を一緒に作ったり、友達の家泊ったり、お互いの言語を教え合ったりしました。最も思い出に残っているのは、2月にカーニバルに行ったことです。ヨーロッパでは有名な行事のひとつで、みんなでコスチュームを着て参加しました。ドイツの大きなイベントのひとつをみんなで楽しめたことは、最高の思い出です。また、帰国が近づいた頃には、学校の友達や留学生の友達を招いてプールパーティーを開催しました。私がすべて計画し、留学生の友達の学校の人たちも招いたことで、新しい出会いも生まれました。みんなが「楽しかった！」と言ってくれたことがとても嬉しかったです。さらに、寿司

パーティーを開き、みんなで寿司や味噌汁、抹茶ラテを作って日本文化を紹介しました。箸を使って一緒に食事をする経験を楽しんでもらえたことが嬉しかったです。

さらに、留学団体のプログラムで5日間ベルリンに滞在し、新しいホストファミリーと過ごしました。短い期間でしたが、ベルリンの歴史や素敵な場所を案内してもらい、貴重な体験ができました。また、ホストファミリーとはドイツ国内だけでなく、スペインやフランスにも旅行し、さらに絆を深めることができました。

この1年間の留学を通じて、私は言語力の向上だけでなく、新しい価値観、かけがえない家族や友達、世界各国の留学生との交流、新しい環境での適応力、日本との文化の違いなど、多くのことを学びました。日本にいただけではできない経験ばかりで、今では「挑戦しよう」「自分から行動しよう」「誰かの助けになろう」という意識が芽生え、さまざまな場所へ積極的に出向くようになりました。この経験を活かし、これからも夢に向かって大学で学び、挑戦し続けていきます。そして、留学に行かせてくれた家族や、現地で支えてくれた人々への感謝の気持ちを忘れずに、恩返しができるよう努力していきます。

